

エコアクション21 環境経営活動レポート

2023年度版

《期間：2023年4月～2024年3月》



(SUV車ラインナップ)

令和6年6月30日

株式会社 **福島マツダ**



環境省
エコアクション21
認証番号 0008011

1-1. 組織の概要



1. 事業社名及び代表者

株式会社 福島マツダ

代表取締役社長 高場 武一郎

2. 所在地

福島県郡山市図景一丁目8番21号 〒963-8834

3. 事業内容

マツダブランドの乗用車・商用車の新車販売

中古自動車販売

部品・用品などの販売

自動車整備業

損害保険代理業 等

4. 事業の規模

1) 店舗数: 12店舗 2013年2月 全店舗が認証登録。

2) 対象店舗数: 12店舗

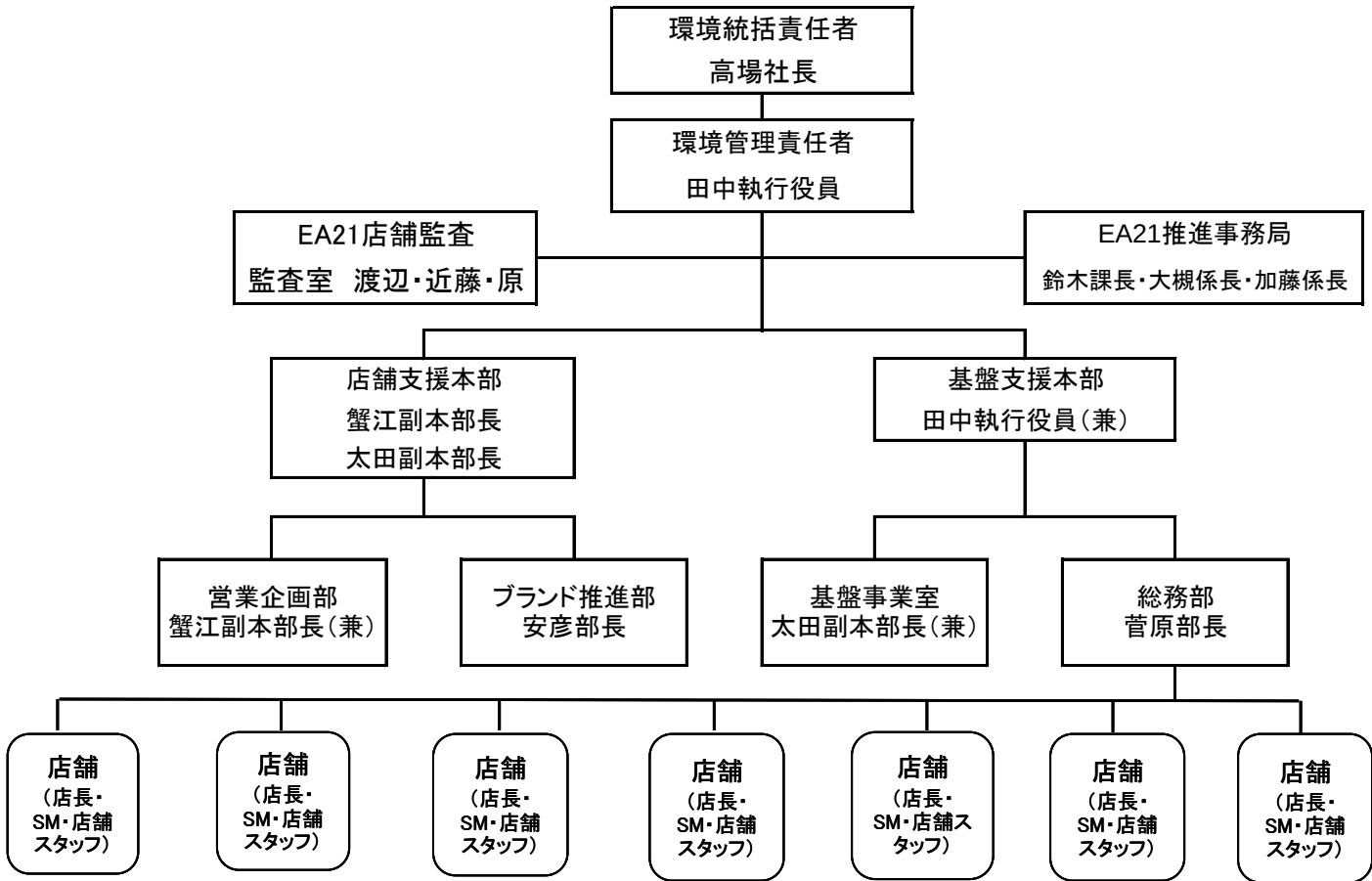
(注1)①郡山店・BPセンター・本社は、隣接しているため1店舗としています。

活動規模	単位	2021年	2022年	2023年
従業員	人	304	312	310
売上高	百万円	8,943	9,018	9,320
販売台数	台	1,824	2,522	2,274
整備在庫台数	台	112,356	56,024	54,174
床面積	m ²	12,640.00	12,640.00	12,640.00

5. 環境管理責任者及び担当者

環境管理責任者	基盤支援本部	執行役員 本部長	田中 五輪彦
EA21環境推進事務局 総務部		総務経理Gr 課長	鈴木 啓収
EA21環境推進事務局 総務部		総務経理Gr 係長	大槻 隆雄
EA21環境推進事務局 営業企画部		営業総括Gr 係長	加藤 規勸

連絡先 TEL: 024-932-5420
FAX: 024-922-2218



担当者	役割
環境統括責任者 <社長>	・環境マネジメントシステム（以下EMS）に関する統括責任者 ・経営における課題とチャンス の明確化 ・EMSの実施及び運用に必要な人・設備・費用・時間・情報を用意 ・実施体制を構築し、環境管理責任者の任命 ・環境経営方針の策定・見直し及び全従業員へ周知 ・実施体制の構築及び全従業員への周知 ・環境経営目標の設定を承認 ・代表者による全体の評価と見直しを実施 ・環境経営活動レポートの承認
環境管理責任者	・実務上の責任者として、環境取り組みを推進 ※代表者は、環境活動の実務に関して全部門に対する指揮命令権限を委譲 ・EMSの構築、実施、管理 ・環境経営活動計画書、環境関連法令取りまとめリスト等の承認 ・環境経営活動の取組結果を代表者へ報告 ・環境経営活動レポートの確認
EA21推進事務局	・環境管理責任者をサポートし、EA21推進事務局として環境取り組みを推進 ・店舗の環境取り組みの指導・支援 ・環境データの集計・取りまとめ、環境経営活動レポートの作成
EA21店舗監査	・環境経営コンプライアンスの遵守の確認 ・EA21環境取り組みの内部監査と指導、報告
部門長（本部長、部長、次長等）	・全社の環境取り組みを推進 ・担当部門の環境取り組みの責任者
店舗環境管理責任者 <正:店長、 副:SM(*)>	・店長： 店舗の環境取り組み全体の責任者として、店舗環境取組の推進・管理 ・SM： サービス領域の環境取り組みに責任を持つ - とともに店舗全体の環境取り組みにおいて店長をサポートする
EA21店舗事務スタッフ	・店舗内の取組推進の指導と支援、データの集計、取りまとめ、本部への報告

* SMは、サービスマネージャーの略称

2024年4月1日
代表取締役 高場 武一郎

2. 対象範囲(認証・登録範囲)



1. 事業所一覧（認証・登録範囲）

事業所		郵便番号	住所	電話番号	FAX番号
1	本社	〒963-8834	郡山市図景1-8-21	024-932-5420	024-922-2218
	郡山店	〃	〃	024-932-5403	024-922-4451
	BPセンター	〃	〃	024-932-0506	024-932-0512
2	日和田店	〒963-0534	郡山市日和田町字南原2-216	024-968-2381	024-958-5650
3	須賀川店	〒962-0022	須賀川市丸田町327	0248-76-3125	0248-76-0352
4	白河店	〒961-0982	白河市立石9-13	0248-24-1161	0248-24-1163
5	福島店	〒960-8228	福島市松山町17-1	024-535-2251	024-535-2257
6	太平寺店	〒960-8151	福島市太平寺字過吹8	024-546-1376	024-546-1347
7	福島本内ユーカーランド*	〒960-0103	福島市本内字上台13-2	024-553-0111	024-553-4632
8	平中央店	〒973-8402	いわき市内郷御厩町4-117	0246-26-1101	0246-26-1109
9	平店	〒970-8023	いわき市平鎌田字大角9-1	0246-22-5547	0246-23-1890
10	勿来店	〒974-8233	いわき市錦町中央3-3-20	0246-63-3125	0246-63-0781
11	原町店	〒975-0032	南相馬市原町区桜井町2丁目398	0244-23-4135	0244-22-6215
12	会津若松店	〒965-0028	会津若松市亀賀一丁目1番地の2	0242-22-6526	0242-25-2195

株式会社 福島マツダ

環 境 経 営 方 針

<基本理念>

株式会社福島マツダは、自動車販売・自動車整備などの全ての事業活動において、お客様、地域の皆様へ安心・安全なクルマの提供を通じ、自然との調和を図りながら地球環境の保護と豊かな社会づくりに貢献します。

<行動指針>

1. 環境に関する法規制等を遵守します。
2. 限りある資源を大切にするため、省資源・省エネルギーに努めます。
3. 化学物質の適正管理、使用済み自動車の適正処理を推進します。
4. 循環型社会に向けて、廃棄物の削減・再使用・再利用活動を推進します。
5. 環境に配慮した製品の提供及びグリーン購入を推進します。
6. 環境改善目標を定め、継続的な環境改善活動を実践します。
7. 全従業員にこの環境経営方針を周知徹底するとともに、環境経営活動レポートを作成し、公表します。
8. 地域社会の要請に耳を傾け、地域のより良い環境づくりを目指します。

以上の活動により環境経営の継続的改善を実践してまいります。

制定日： 2010年7月1日

改 定： 2023年4月1日

株式会社 福島マツダ

代表取締役社長

高場 武一郎

4. 環境経営目標

(全店舗の合計)



1. 環境経営目標

項 目	単位	2021年度実績 (基準年度)	年 度 目 標		
			2022年度	2023年度	2024年度
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	1,035,043	1,024,693	1,019,517	1,014,342
(削減率)			-1%	-1.5%	-2%
電力使用量 ※	kWh	1,226,519	1,214,254	1,208,121	1,201,989
(削減率)			-1%	-1.5%	-2%
化石燃料	ガソリン使用量	L	90,783	89,875	89,421
	軽油使用量	L	80,313	79,510	79,108
	灯油使用量	L	36,328	35,965	35,783
	LPガス使用量	m ³	2,511	2,486	2,461
	(削減率)		-1%	-1.5%	-2%
一般廃棄物排出量	t	22.4	22.2	22.1	22.0
(削減率)			-1%	-1.5%	-2%
産業廃棄物排出量	t	117.8	116.6	116.0	115.4
(削減率)			-1%	-1.5%	-2%
水使用量	m ³	8,583	8,497	8,454	8,411
(削減率)			-1%	-1.5%	-2%
点検在庫台数	台	26,184	26,446	26,577	26,708
(増加率)			1%	1.5%	2%
化学物質使用量	kg	662	655	652	649
(削減率)			-1%	-1.5%	-2%
グリーン対象商品(エコカー)の拡販	%	92.9 対象 1696台 総登録 1824台	93.9	94.3	94.8
(増加率)			1%	1.5%	2%
使用済自動車の適正処理の推進	%	100 処理台数 25台 対象台数 25台	対象台数全数の適正処理を行う。		
事務用品のグリーン商品購入	%	74.3 対象 576千円 総購入 776千円	総購入額の80%以上を目標とする。		

※電力のCO₂排出係数

0.000399 t-CO₂/kWh(令和2年1月～オリックス)

対象店舗: 日和田店、須賀川店、福島店、平店、勿来店、会津若松店、原町店、白河店

0.000522t-CO₂/kWh(令和2年1月～東北電力)

対象店舗: 本社・郡山店、太平寺店、平中央店、BPセンター、福島本内UCL店(動力供給)

0.000350t-CO₂/kWh(令和3年5月～リコージャパン)

対象店舗: 福島本内UCL店(電灯再エネ30供給)

5. 環境経営計画



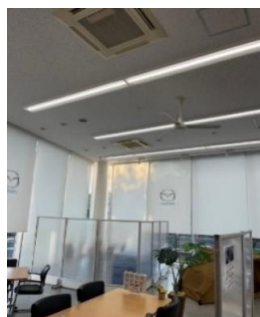
1. 二酸化炭素排出量の削減

1) 電力使用量の削減

- ・ 不要な照明の消灯、節電 → 事務所、ショールーム、メジャーサイン、屋外照明等
- ・ デマンド監視装置による見える化 → 高圧契約店舗には監視装置による管理の徹底
- ・ 省エネ型設備の導入 → 照明器具の省エネLEDへの切り替え
- ・ 空調温度の管理徹底 → 事務所内冷房28℃、暖房20℃の徹底。お客様スペースは体感適温管理。
- ・ 再生可能エネルギーの導入 → ゼロカーボン対策のため、一部店舗を再生可能エネルギー契約へ切り替え



<再エネ導入>



LED切り替え、ブラインド・天井扇による温度管理



- ・ ブラインド、扇風機、天井扇使用による空調の効率化 → 遮光、遮熱、温度管理の徹底
- ・ メジャーサイン、ショールームの消灯時間 → お客様の来店状況にあわせた点灯・消灯。
- ・ 照明、OA機器類の節電 → 社内PC稼働時間の変更による長時間労働抑制
- ・ 定時退社日における定時退社の励行 → 月2回の設定、労働時間・消費電力抑制
- ・ クールビズの実施 → 5月19日～9月30日の期間実施。

2) 化石燃料使用量の削減

- ・ 仕入れ価格、仕入量の毎月社内公開 → 毎月の仕入れ単価、量を店舗毎に公表し、節約の啓蒙。
- ・ 全社員エコ運転を心がける。 → 「エコドライブ10のすすめ」の実践
- ・ 会議、研修等相乗りの励行 → 移動の効率化による節減
- ・ PC(WEB)による会議の開催 → 移動を伴わないため、労働時間・燃料削減にも貢献。
- ・ 法定点検とタイヤ空気圧の適正化 → 車載不要物もチェックし、適正燃費の維持に努める。
- ・ 代車貸出し時の満タン貸出・返却実施 → 代車も次世代環境自動車への切替を実施。

2. 廃棄物総排出量の削減

- ・ 廃棄紙類の分別を行い焼却ゴミを減らす。再生処理へのウェイトを高める。
- ・ ペーパーレス推進のため社内ネット内に共有画面を設置し、不要なFAX、報告書の削減を行った。会議資料についてもパワーポイント等を用いて削減を図った。
- ・ 両面使用の徹底、集約コピーの活用促進、使用済み用紙の再利用。
- ・ コピー使用後はリセットボタンを押し、ミスプリントの防止に努めた。
- ・ 社内便における使用済み封筒の再利用徹底。
- ・ 詰め替え可能なリフィル商品を購入する。
- ・ 産業廃棄物の適正処理を実施、削減を行った。
- ・ 社員個人が持参した弁当ゴミの持ち帰りの継続。



<ペーパーレス推進>

3. 水使用量の削減

- ・ 自動洗車機導入による使用水量の節水。
- ・ 洗車は、バケツへのため水により行い流水を避ける。
- ・ 「節水」の表示を各蛇口に掲示し社員への啓発維持。



<節水への呼び掛け>



<自動洗車機導入>

4. 点検入庫の促進

- ・ お客様へ来店型のパック商品を販売し、不要な引取納車・代車貸出の削減を行い、燃料及びCO₂排出削減につなげる。
- ・ 代車については定期点検を徹底し、常に良い状態での貸出しを行い、環境負荷低減を図った。

5. グリーン購入、販売の推進

- ・ 次世代環境自動車の拡販 → お客様への次世代環境自動車販売の強化・商品知識の勉強等。
(マイルドハイブリット車、PHEV車、EV車、クリーンディーゼル車など)
- ・ 事務用品のグリーン対象商品の購入 → 店舗でのWEBによる購入。

6. 化学物質使用量の削減

- ・ 法令に基づき化学物質を適正に管理しながら、使用量を都度把握する。
- ・ 若手塗装担当者への研修を現場にて積極的に行い、技術力の向上、使用量の平準化へ繋げていく。
- ・ 有機溶剤を取り扱う社員への有機溶剤検診の実施。

7. その他の取組(社会貢献等)

- ・ 福島県が推進する地球温暖化防止事業「ふくしまゼロカーボン宣言事業」への継続参加。
- ・ エコキャブ運動の積極的継続推進、ライトダウンキャンペーン全店参加、交通遺児募金や献血運動への協力。
- ・ 地域社会との連携作りのため<ボランティア清掃>、主要店舗へAED(自動体外式除細動器)の設置。
- ・ 事故車からのオイル流出の緊急対応訓練を実施し、不測の事態にも対応出来る体制作りを強化する。



<ボランティア清掃活動>



<オイル流失時の緊急対応訓練の実施>

6. 環境経営目標の実績



2022年4月-2023年3月運用期間の実績

項 目	単位	2023年度 目標	前年実績 (’22/4-’23/3 月) ※2022年	本年実績 (’23/4-’24/3月)	目標達成率	前年比	評価
二酸化炭素排出量	kg-CO ₂	1,019,517	1,026,197	998,406	102.1%	97.3%	○達 成
電力使用量	kWh	1,208,121	1,178,636	1,150,231	105.0%	97.6%	○達 成
ガソリン使用量	L	89,421	95,180	93,646	95.5%	98.4%	△一部達成
軽油使用量	L	79,108	81,951	81,394	97.2%	99.3%	△一部達成
灯油使用量	L	35,783	34,192	#####	127.1%	82.3%	○達 成
LPガス	m ³	2,473	2,695	3,619	68.3%	134.3%	×未達成
水使用量	m ³	8,454	8,408	8,486	99.6%	100.9%	×未達成
一般廃棄物総排出量	t	22.1	21.5	20.7	106.6%	96.4%	○達 成
産業廃棄物総排出量	t	116.0	152.3	113.0	102.7%	74.2%	○達 成
点検在庫台数	台	26,577	25,084	24,491	92.2%	97.6%	×未達成
化学物質使用量	kg	652	464	445	146.5%	95.9%	○達 成
グリーン対象商品 (エコカー)の拡販	%	94.3	100.0	対象1937台 登録1937台 100.0	106.0%	100.0%	○達 成
使用済自動車の適正処 理の推進	%	100.0	100.0	処理台数25台 対象台数25台 100.0	100.0%	100.0%	○達 成
事務用品のグリーン商品 購入	%	80.0	12.4	対象633千円 購入5577千円 11.4	14.2%	91.5%	×未達成

〔評価の基準〕

- (達成): 目標値・昨年値ともに達成
- △(一部達成): 目標は達成、昨年値より悪化
- ×(未達成): 目標値・昨年値ともに悪化

●環境への負荷の状況（取りまとめ表）

環境への負荷		単位	2021年	2022年	2023年
① 温室効果ガス排出量	二酸化炭素	kg-CO ₂	1,035,043	1,026,197	998,406
	()	kg-CO ₂			
	()	kg-CO ₂			
② 廃棄物排出量及び 廃棄物最終処分量	一般廃棄物	(循環資源量)	t	16.53	16.34
		(廃棄物焼却量)	t	5.87	5.20
		最終処分量	t	0.01	0
	産業廃棄物	(循環資源量)	t	96.83	90.41
		(廃棄物焼却量)	t	12.11	17.58
		最終処分量	t	8.83	15.96
③-1 総排水量	公共用水域	m ³	-	-	-
	下水道	m ³	7,258	7,089	7,507
③-2 水使用量	上水	m ³	8,583	8,408	8,486
	工業用水	m ³	-	-	-
	地下水	m ³	-	-	-
		m ³	-	-	-
④ 化学物質使用量	トルエン	kg	450	285	271
	キシレン	kg	212	179	174
	CFC12	kg	0	0	0
		kg	0	0	0
⑤ エネルギー使用量	購入電力(新エネルギーを除く)	MJ	12,056,682	11,583,053	11,306,773
	化石燃料	MJ	7,663,088	7,882,347	7,564,386
	新エネルギー	MJ	0	0	0
	その他	MJ	0	0	0
⑥ 物質使用量	資源使用量	t	5.682	5.477	5.451
	循環資源使用量	t	0	0	0
⑦ サイト内で循環的利用を 行っている物質等	利用された物質等	t	0	0	0
	水の利用量	m ³	0	0	0
⑧ 総製品生産量または 総商品販売量	製品生産量等	t	-	-	-
	環境負荷低減に資する製品等	台	1,696	2,522	2,274
	容器包装使用量	t	-	-	-

○①温室効果ガス排出量（二酸化炭素）、②廃棄物排出量、③-1 総排水量、④化学物質使用量は必須項目
です。なお、総排水量の把握が困難な場合には、③-2 水使用量が把握必須項目となります。

○各指標の値については次頁以降の集計結果を記入してください。

○⑧総製品生産量または総商品販売量について、「製品」は、工場等で製造された品物を意味し、「商品」
は、売買の目的物としての品物を意味します。したがって「商品」には、「製品」や「サービス」等も含
まれます。

1. 環境経営計画の取組結果とその評価

1) 二酸化炭素排出量の削減



＜取組結果＞ 年度目標に対して計画は達成。 目標達成率 102.1%
 前年より排出量が削減目標では多少だが削減できた。空調設備などは温度設定をできる限り暖房20° 冷房28° を目指し、フロアの空調をすべて稼働ではなく間引く様に使い分けをし節電した。化石燃料の使用量については外出の際は試乗車を使用することによりガソリン車・ディーゼル車の使用頻度が多くなったことも影響したと思われる。大幅な二酸化炭素排出量までには至らなかったが使用電力を押さえる事によって化石燃料の排出量をカバーした様になってしまったが、全体的な二酸化炭素排出量の削減は達成できた。

2) 電力使用量の削減

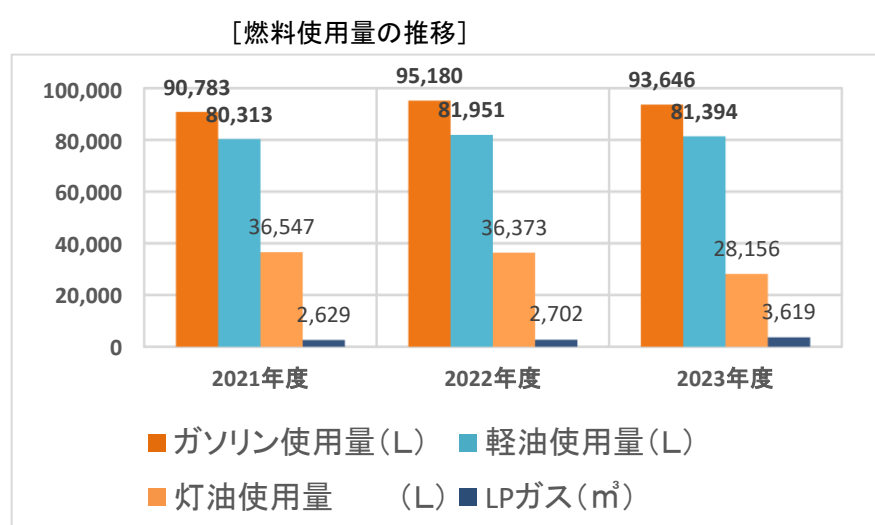


＜取組結果＞ 年度目標に対して計画は達成。 目標達成率 105.0%

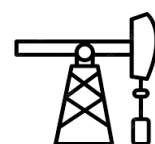
電力使用量の削減については夏場と冬場で最も空調の稼働負荷の日数が多かったが、お客様が過ごし易い環境の提供のために店舗社員が空調の定期的な清掃・サーキュレーターや扇風機の併用、ショールームの日差しを遮るなど猛暑や氷点下の際の電気使用量が急激に増加しないよう工夫を全社で行った。今後も全体で節電への細かな見直しを行いながら、計画的な環境対取り組みを継続していく。

3) 化石燃料使用量の削減

＜取組結果＞ ガソリン(達成率95.5%)、軽油(達成率97.2%) 灯油(達成率127.1%) LPガス(達成率68.3%)



チャーター車両制度廃止し、外出する際は個人車ではなく社用車などを使用するようになり業務内で買出しなどの外出が少なくなった。主に店舗応援、社外研修などの出張の給油回数が多くなったが、相乗りやエコドライブを継続したことにより、少なからず抑制する事はできた。灯油消費についても旧型のヒーターを省エネタイプへ切り替え、さらに大型のヒーターを最新型エアコンへ切り替えた事により削減が出来た。LPガスは冬場の低温氷点下が続き、板金工場における塗装乾燥に時間が掛かり増加した。削減を引き続き意識していく。



4) 水使用量の削減

＜取組結果＞ 目標より32m³の増加。 目標達成率 99.6%

節水型の門型洗車機等の導入により使用する水量の制限によりを1台の車の洗車に使用する水量は減らせたが、全体の使用量は僅かながら増加した。先行予約などにより入庫台数の増加に対して水量の増加も懸念したが入庫台数の減少で大幅に増えることはなかった。今後も節水の意識を持ちながら更に節水への意識向上に努めて行く。

5) 廃棄物総排出量の削減

＜取組結果＞ 一般廃棄物(目標達成率106.6%)で達成、産業廃棄物(目標達成率102.7%)で一部達成

日々継続している紙類の裏面再利用の推進及びリサイクル古紙としての再生処理、社員の弁当ガラの持帰りの活動に取り組むとともに、産廃についても日々の工場での作業において無駄を意識した取り組みにより廃棄量の削減につなげたが、産業廃棄物では店舗統合により閉鎖した店舗・工場内の清掃により年度目標は未達成とした。今後も更に日常業務における社内ポータルサイトでの情報共有を推進することにより、ペーパーレス化を意識させ無駄な廃棄への意識付けを向上、排出量の削減につなげていく。



6) 点検入庫の促進

＜取組結果＞ 目標より-2786台、前年より-593台減 目標達成率 92.2%

車検・点検時期のお客様へ先行して6カ月前にお知らせをし、点検のご予約を頂くとともにメンテナンスパック商品を拡販することにより台数の確保を目指したが、結果が前年より1.3%入庫が減少し、目標より2,700台ほど不足した。今後のお客様のお車を正確かつ丁寧な作業を行うことにより、安心・安全で燃費のよいコンディション状態でお乗り頂くことが出来る整備の提供を継続するとともにお客様への有益な情報提供に注力し入庫台数につなげていく。

7) 化学物質使用量の削減

＜取組結果＞ 前年より19kg減。 目標達成率 146.5%

前年実績の使用量から19kgの使用量減少をさせることが出来た。大掛かりな修理車両の入庫があまりなく小損傷の作業依頼が多く、使用量の減少につながったと思われる。再修理の物も少なくおかつ板金塗装を必要とする車両の入庫が少なかった事が要因と考えられる。今後の課題として入庫台数確保とスタッフのさらなるスキル向上を目指して、使用量削減に取り組んでいきたい。

8) グリーン対象商品（エコカー）拡販の推進

＜取組結果＞ 次世代環境自動車登録台数割合 100%

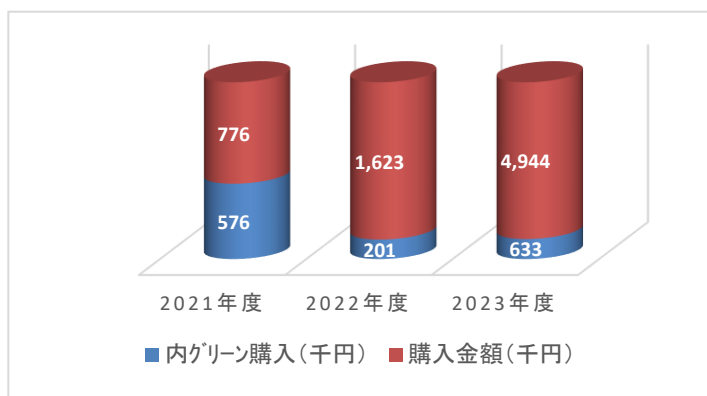


昨年度と同様に現在、扱っている新車すべてが次世代環境自動車となり登録台数に関して100%となった。環境性能車を主にハイブリット車、EV・ROTARY-EV車、PHEV車をさらに拡販を行い、環境改善活動の貢献を引き続き継続する。



9) グリーン購入の推進

＜取組結果＞ 2023年度のグリーン購入は全体購入額の11.4%、目標の50%以上までに届かず。



全店舗にてネット注文「べんりねっと」にて購入することになり、来店下さったお客様へのおもてなしなどのお茶菓子・お手拭きなども購入しており、全体の購入金額に対してグリーン購入割合が低くなった。主なものが再生利用品やリフィル品であるため目標には届いていないが事務用品に至っては環境商品の購入を積極的に購入を行った。

10) 使用済自動車の適正処理推進

＜取組結果＞ 対象台数全数を適正に処理することができた。

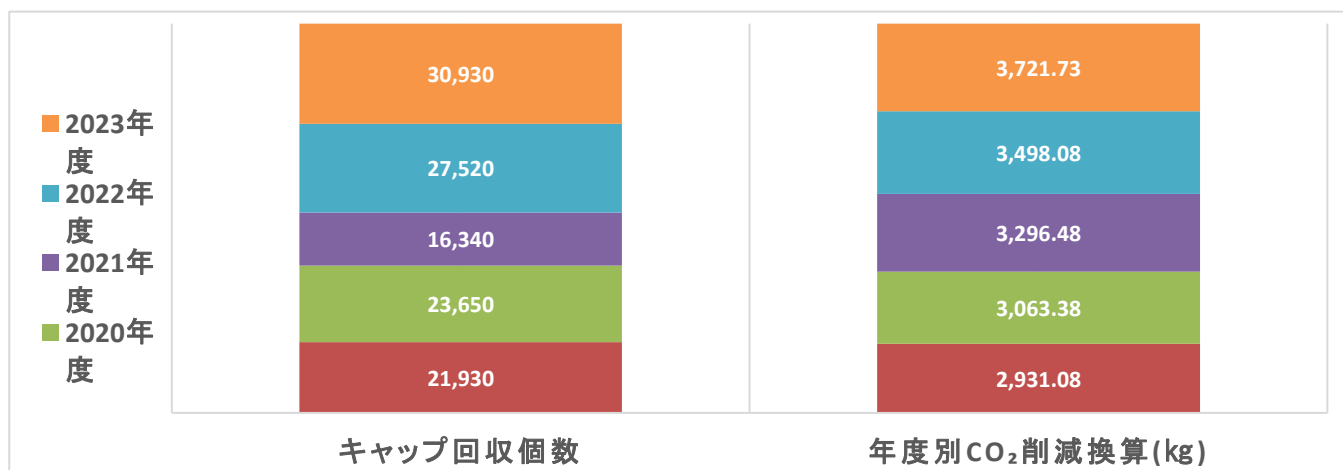
使用済引取自動車について、対象台数25台を法令に従い適正に処理することが出来た。引き続き遅滞ない処理を継続する。

11) エコキャップ運動への取り組み

・2008年以来取組んできた本運動も毎年継続中。

→ 累計499,225個 CO₂削減換算 3721.73kg (2023年12月27日現在)

年度別エコキャップ回収個数と焼却した場合のCO₂削減換算の累計(kg)



※2008年度～2018年度までのキャップの回収累計個数は378,915個。

※また、キャップ1000個(2kg)がこども1人分のワクチン代に相当しSDGsに貢献(累計約500人分)。

1. 環境関連法規

環境関連法規		廃棄物 処理法	自動車リ サイクル 法	大気汚染 防止法	下水道法	浄化槽法	騒音規制法	振動規制法	消防法
要求事項		廃棄物の適正 処理	使用済自動車 の適正処理	特定施設の届 出(塗装施 設、塗装後の 乾燥・焼付施 設)	特定施設の届 出(自動式車 両洗浄施設)	・浄化槽設置 の届出 ・保守点検 ・清掃記録	特定施設の 届出(コンプレッサー)	特定施設の届出 (コンプレッサー)	消防用設備の 設置、危険物 取扱
評価	本社	○	○	-	-	-	-	-	○
	郡山店	○	○	-	○	-	○	○	○
	BPセンター	○	-	○	-	-	○	○	○
	日和田店	○	○	-	○	-	-	-	○
	須賀川店	○	○	-	○	-	-	-	○
	白河店	○	○	-	○	-	-	-	○
	福島店	○	○	-	○	-	-	-	○
	太平寺店	○	○	-	○	○	○	○	○
	福島本内UC※ 1	○	○	-	-	○	-	-	○
	平中央店	○	○	-	○	-	-	-	○
	平店	○	○	-	-	○	-	-	○
	勿来店	○	○	-	○	-	-	-	○
	原町店	○	○	-	○	-	-	-	○
	会津若松店	○	○	-	○	-	-	-	○

※1 UCは、ユーカーランドの略称。

2. 違反・訴訟の有無

環境関連法規の訴訟は発生していません。

昨年4月、消防署の査察で法令違反の指摘を受ける。当月中に指摘箇所の改善対策を完了(一部7月完了)。

9. 代表者による全体の評価と見直し



実施日 (評価日)	2024年 6月24日 11:00～11:45
場所	本社 会議室
出席者	高場社長（環境統括責任者） 太田副本部長（サービス部門） 近藤（EA21店舗監査/監査室） 安彦部長（ブランド推進部） 大槻係長（EA21推進事務局） 田中執行役員（環境管理責任者） 渡辺部長（EA21店舗監査/監査室） 菅原部長（総務部） 鈴木課長（EA21推進事務局） 加藤係長（EA21推進事務局）
使用した資料	- エコアクション21 記録 - 環境経営活動レポート
評価	2023年度の活動を振り返ると、全スタッフの環境活動への取組意識の向上により、水道・光熱費部分に関しては昨年と比較し水道量以外は目標達成することができた。ガソリン・軽油といった化石燃料に関しても、昨年来若干ながら抑制することが出来た。車両での移動が緩和されたことや、県内各地で特設展示会・他イベント開催にて使用する車両の種類は増えたが、それに伴う燃料消費量の増加は抑えることができた。今後のカーボンニュートラルについては、ハイブリット車・EV車・PHEV車とラインナップが充実していくことで更に燃料の消費量が低減することが見込まれる。また、事務用品を店舗ごとにWEBでの発注に切り替えたことで業務時間内の外出時間やそれに伴うリスク低減、社用車の燃料消費削減に貢献できた。
見直し	EA21店舗監査による定期的チェック及び四半期毎の自店の活動の振り返りを継続することにより、費用低減はもとより法令対応に対しても遵守意識が定着してきている。しかし、店舗ごとの活動への意識レベルにおいてはまだまだ修正点も多く、日々の繁忙から細かな部分が徹底できない場面も見られる。引き続き、全員で様々な事象に対応していくことを強く意識して活動を継続して行きたい。細やかな部分を注意していくことで、お客様に我々が提供する商品全般にご満足頂き、また同時に信頼を得ながら数多く来店頂き常に良い状態のお車をお乗り頂くよう努めていく。結果、環境負荷へ貢献する活動に繋げていく。
指示事項	①店舗取組の更なる是正を目指し、チェック・フォローの強化を行っていく。…四半期毎の活動の進捗確認、店舗監査による指導継続しステークホルダーの信頼を高めていく。 ②労働時間の適正化…就業時間の中で業務を完結できるよう、きめ細かく内容を精査して余暇の時間を創出、光熱費等エネルギー削減へつなげていく。 ③設備投資の前倒し実施…定期的またタイムリーな店舗・施設の修繕を行い、都度省エネ対応の製品を導入することで環境への負荷を図っていく。 ④社会貢献活動への積極的参加…引き続き「地域ごとのボランティア清掃」・「ふくしまゼロカーボン宣言」・「ライトダウン宣言」・「交通遺児募金」・「専門学校への講師派遣」等に継続参加していく。

以上のとおり評価と見直しを行ないました。

代表取締役社長 **高場 武一郎**